

## 平成30年度 看護学部2学年シラバス（後期）

<後期>

|                          |         |
|--------------------------|---------|
| 英語Ⅱ 後期A                  | …P2～7   |
| 〃 後期B                    | …P8～14  |
| 病態診断治療学                  | …P15～21 |
| 看護実践を支える看護技術とアセスメントⅢ     | …P22～27 |
| 薬物治療学                    | …P28～33 |
| 成長発達に合わせた健康の維持・増進に関する看護Ⅱ | …P34～41 |
| 健康障害をもつ高齢者の看護Ⅰ           | …42～48  |
| 家族看護論                    | …49～54  |
| 地域看護学Ⅰ                   | …55～61  |
| 地域を理解する実習                | …62～67  |
| 基礎看護学実習Ⅱ                 | …68～73  |

区分名：表現力を培う

科目名（英語名称含む）：英語 2 後期 A グループ (English 2)

教員名：中山 仁

開講年次：2年次，学 期：2018年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：60時間

概要：医療英語に関する記事などを読んで、看護・医療の分野で使われる英語の語彙や表現について学ぶ。授業では、(1)医療に関連する語彙・表現を覚える演習、(2)ニュースなどのリスニング・リーディングを通して、内容理解に必要な文法や構文を理解するための演習を行う。また、(3)英文の内容を通して、最近の医療事情について理解を深める。

学習目標：1)基本的な医学用語を正しく発音し、その意味が理解できる。

2)習得した医学用語に基づいて、派生語や類義語の発音・意味を理解できる。

3)医療英語に関する記事のキーワードを読み取ることができる。

4)英語の文法と文章構成のパターンに基づいて、英文を正確に読み取ることができる。

5)英文を問題意識を持って読むことができる。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

| 学習アウトカム   |             |   | 科目達成レベル                                       |   |                     |
|---|-------------|---|---|---|---------------------|
| 1. プロフェッショナル                                    |             |   |   |   |                     |
| 看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。 |             |   |   |   |                     |
| 1)  | 看護倫理        | ① | 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。            | - | 修得の機会がない            |
|   |             | ② | 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。 |   |                     |
| 2)  | 習慣・服装・品位/礼儀 | ① | 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。             | △ | 修得の機会はあるが、単位認定に関係ない |
|   |             | ② | 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。        |   |                     |
|   |             | ③ | 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。                    |   |                     |

|  |                       |   |   |   |                     |
|--|-----------------------|---|---|---|---------------------|
| 3)   | 対人関係                  | ① | 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。                                    | △ | 修得の機会はあるが、単位認定に関係ない |
| 4)   | 法令等の規範遵守              | ① | 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。                                 | — | 修得の機会がない            |
|  |                       | ② | 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。  |   |                     |
| 2. 生涯学習  |                       |   |   |   |                     |
| 看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。 |                       |   |   |   |                     |
| 1)   | 自己啓発と自己鍛錬             | ① | 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。                                     | △ | 修得の機会はあるが、単位認定に関係ない |
|  |                       | ② | 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。                                     |   |                     |
|  |                       | ③ | 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。                            |   |                     |
|  |                       | ④ | 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。 |   |                     |
| 3. 人間関係の理解とコミュニケーション   |                       |   |   |   |                     |
| 自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。    |                       |   |   |   |                     |
| 1)   | 看護を必要とする人々とのコミュニケーション | ① | 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。                                 | △ | 修得の機会はあるが、単位認定に関係ない |
|  |                       | ② | 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。  |   |                     |
|  |                       | ③ | 看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。                                |   |                     |
|  |                       | ④ | 望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。                                     |   |                     |

|   |                    |   |   |   |                          |
|---|--------------------|---|---|---|--------------------------|
| 2)  | チームでのコミュニケーション     | ① | 人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。                       | - | 修得の機会がない                 |
|   |                    | ② | チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。             |   |                          |
|   |                    | ③ | チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。 |   |                          |
|   |                    | ④ | 人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。        |   |                          |
| 4. 知識とその応用                                |                    |   |   |   |                          |
| 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。 |                    |   |   |   |                          |
|   |                    |   | 以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)                        |   |                          |
| 1)  | 豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者 | ① | 感性を高める科目  | ● | 基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である |
|   |                    | ② | 倫理性を高める科目   |   |                          |
|   |                    | ③ | 論理的思考能力を高める科目   |   |                          |
|   |                    | ④ | 表現力を培う科目  |   |                          |
| 2)  | 創造性豊かな看護専門職者       | ① | 社会の理解を深める科目   | ● | 基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である |
|   |                    | ② | 人間の理解を深める科目   |   |                          |
|   |                    | ③ | 人間の身体機能と病態を理解する科目   |   |                          |
|   |                    | ④ | 看護の基本となる科目  |   |                          |
|   |                    | ⑤ | 看護実践の基盤となる科目  |   |                          |

|  |                        |   |   |   |          |
|--|------------------------|---|---|---|----------|
| 3)   | ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者 | ① | 看護実践の応用となる科目  | — | 修得の機会がない |
|  |                        | ② | 看護の実践   |   |          |
|  |                        | ③ | 看護を統合する科目   |   |          |
| 5. 看護の実践   |                        |   |   |   |          |
| 人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。 |                        |   |   |   |          |
| 1)   | 人々のニーズに基づいた看護の実践       | ① | 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。  | — | 修得の機会がない |
|  |                        | ② | 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。                                     |   |          |
|  |                        | ③ | 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。                                    |   |          |
|  |                        | ④ | 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。   |   |          |
|  |                        | ⑤ | 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。   |   |          |
|  |                        | ⑥ | 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。                            |   |          |
|  |                        | ⑦ | 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。  |   |          |
|  |                        | ⑧ | 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。 |   |          |
| 6. 地域社会への貢献  |                        |   |   |   |          |

|   |                 |   |  |   |                             |
|---|-----------------|---|--|---|-----------------------------|
| <p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p> |                 |   |  |   |                             |
| 1)  | 地域の人々の生命と暮らしを守る | ① | 地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。   | △ | 修得の機会はあるが、単位認定に関係ない         |
|   |                 | ② | 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。      |   |                             |
| 2)  | 福島の災害から学ぶ       | ① | 福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。  | △ | 修得の機会はあるが、単位認定に関係ない         |
|   |                 | ② | 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。                           |   |                             |
|   |                 | ③ | 放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。 |   |                             |
| 7. 看護学発展への貢献  |                 |   |  |   |                             |
| 看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。   |                 |   |  |   |                             |
| 1)  | 科学的・論理的思考       | ① | 看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。                                | ● | 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である |
|   |                 | ② | 科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。                        |   |                             |

テキスト：教室で指示する。

参考書：1) 一般語でより豊富な語彙を求める場合：『リーダーズ英和辞典』（研究社）

2) 専門用語の理解のために：『ステッドマン医学大辞典』（メジカルビュー社）  
 成績評価方法：演習点、定期試験および授業の準備状況、授業への参加度・貢献度等を総合して評価する。

その他（メッセージ等）：読む英文の量が増え、専門性が高くなります。しっかりと準備を

して授業に臨んで下さい。医学用語の独特の発音とともにたくさんの語を覚え、英語を通して医療の知識や関心がさらに高まることを期待しています。

授業内容(学習項目)

| 回数   | 項目               | 内容 (キーワード等)       |
|------|------------------|-------------------|
| 第1回  | Course Overview  | Warm-up Exercises |
| 第2回  | 医療・看護に関する記事 (1)  | リスニング・リーディング・発音練習 |
| 第3回  | 医療・看護に関する記事 (2)  | リスニング・リーディング・発音練習 |
| 第4回  | 医療・看護に関する記事 (3)  | リスニング・リーディング・発音練習 |
| 第5回  | 医療・看護に関する記事 (4)  | リスニング・リーディング・発音練習 |
| 第6回  | 医療・看護に関する記事 (5)  | リスニング・リーディング・発音練習 |
| 第7回  | 医療・看護に関する記事 (6)  | リスニング・リーディング・発音練習 |
| 第8回  | 医療・看護に関する記事 (7)  | リスニング・リーディング・発音練習 |
| 第9回  | 医療・看護に関する記事 (8)  | リスニング・リーディング・発音練習 |
| 第10回 | 医療・看護に関する記事 (9)  | リスニング・リーディング・発音練習 |
| 第11回 | 医療・看護に関する記事 (10) | リスニング・リーディング・発音練習 |
| 第12回 | 医療・看護に関する記事 (11) | リスニング・リーディング・発音練習 |
| 第13回 | 医療・看護に関する記事 (12) | リスニング・リーディング・発音練習 |
| 第14回 | 医療・看護に関する記事 (13) | リスニング・リーディング・発音練習 |
| 第15回 | Review Quiz      | まとめ               |

区分名： コミュニケーション

科目名： 英語 2 後期 B グループ ( English 2B )

教員名： 亀田政則

開講年次： 2 年次， 学期： 2018 年度後期 必修

授業形態： 演習， 単位数： 1 単位 ， 時間数： 60 時間

概要： 現代における「健康と医療をめぐるトピックス」にかんする英文記事の効率的読解。

学習目標：

1. 数学の英語について、基礎的知識を身につける。
2. 健康や医療にかんする専門用語の分析・構成法についての知識を身につける。
3. 英文の論理構成を分析し、効率的な読解ができるようになる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

| 学習アウトカム   |             |   | 科目達成レベル                                       |               |
|---|-------------|---|---|---------------|
| 1. プロフェッショナル                                    |             |   |   |               |
| 看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。 |             |   |   |               |
| 1)  | 看護倫理        | ① | 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。            | —<br>修得の機会がない |
|   |             | ② | 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。 |               |
| 2)  | 習慣・服装・品位/礼儀 | ① | 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。             | —<br>修得の機会がない |
|   |             | ② | 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。        |               |
|   |             | ③ | 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。                    |               |
| 3)  | 対人関係        | ① | 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。            | —<br>修得の機会がない |
| 4)  | 法令等の規範遵守    | ① | 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。         | —<br>修得の機会がない |



|  |                       |   |   |   |                              |
|--|-----------------------|---|---|---|------------------------------|
|  |                       | ② | 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。  |   |                              |
| 2. 生涯学習  |                       |   |   |   |                              |
| 看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。 |                       |   |   |   |                              |
| 1)   | 自己啓発と自己鍛錬             | ① | 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。                                     | — | 修得の機会がない                     |
|  |                       | ② | 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。                                     |   |                              |
|  |                       | ③ | 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。                            |   |                              |
|  |                       | ④ | 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。 |   |                              |
| 3. 人間関係の理解とコミュニケーション   |                       |   |   |   |                              |
| 自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。    |                       |   |   |   |                              |
| 1)   | 看護を必要とする人々とのコミュニケーション | ① | 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。                                 | ○ | 基盤となる態度、スキルを示せることが単位認定の要件である |
|  |                       | ② | 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。  |   |                              |
|  |                       | ③ | 看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。                                |   |                              |
|  |                       | ④ | 望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。                                     |   |                              |
| 2)   | チームでのコミュニケーション        | ① | 人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。                                 | — | 修得の機会がない                     |
|  |                       | ② | チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。                       |   |                              |
|  |                       | ③ | チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての                                |   |                              |

|   |                        |   |  |   |                             |
|---|------------------------|---|--|---|-----------------------------|
|   |                        |   | 責任を果たす重要性を理解することができる。                                |   |                             |
|   |                        | ④ | 人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。 |   |                             |
| 4. 知識とその応用                                |                        |   |  |   |                             |
| 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。 |                        |   |  |   |                             |
|   |                        |   | 以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)                 |   |                             |
| 1)  | 豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者     | ① | 感性を高める科目   | ○ | 模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である |
|   |                        | ② | 倫理性を高める科目  |   |                             |
|   |                        | ③ | 論理的思考能力を高める科目  |   |                             |
|   |                        | ④ | 表現力を培う科目   |   |                             |
| 2)  | 創造性豊かな看護専門職者           | ① | 社会の理解を深める科目  | ○ | 模擬的な場に知識を応用できることが単位認定の要件である |
|   |                        | ② | 人間の理解を深める科目  |   |                             |
|   |                        | ③ | 人間の身体機能と病態を理解する科目                                    |   |                             |
|   |                        | ④ | 看護の基本となる科目   |   |                             |
|   |                        | ⑤ | 看護実践の基盤となる科目   |   |                             |
| 3)  | ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者 | ① | 看護実践の応用となる科目   | — | 修得の機会がない                    |
|   |                        | ② | 看護の実践  |   |                             |
|   |                        | ③ | 看護を統合する科目  |   |                             |
| 5. 看護の実践                                  |                        |   |  |   |                             |

|   |                  |   |   |   |          |
|---|------------------|---|---|---|----------|
| 人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。  |                  |   |   |   |          |
| 1)  | 人々のニーズに基づいた看護の実践 | ① | 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。  | — | 修得の機会がない |
|   |                  | ② | 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。                                     |   |          |
|   |                  | ③ | 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。                                    |   |          |
|   |                  | ④ | 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。   |   |          |
|   |                  | ⑤ | 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。   |   |          |
|   |                  | ⑥ | 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。                            |   |          |
|   |                  | ⑦ | 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。  |   |          |
|   |                  | ⑧ | 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。 |   |          |
| 6. 地域社会への貢献   |                  |   |   |   |          |
| <p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p> |                  |   |   |   |          |
| 1)  | 地域の人々の生命と暮らしを守る  | ① | 地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。                            | — | 修得の機会がない |

|   |           |   |  |   |          |
|---|-----------|---|--|---|----------|
|   |           | ② | 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。      |   |          |
| 2)  | 福島から学ぶ    | ① | 福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。  | - | 修得の機会がない |
|   |           | ② | 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。                           |   |          |
|   |           | ③ | 放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。 |   |          |
| 7. 看護学発展への貢献  |           |   |  |   |          |
| 看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。 |           |   |  |   |          |
| 1)  | 科学的・論理的思考 | ① | 看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。                                | - | 修得の機会がない |
|   |           | ② | 科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。                        |   |          |

テキスト： Stapleton P. (2009) Stay Healthy, London: Cengage.

参考書： 英英辞書

成績評価方法： 授業・演習点（20%）＋学期末試験（80%）

その他（メッセージ等）：

授業内容(学習項目)

| 回数  | 項目                                 | 内容（キーワード等）  |
|-----|------------------------------------|---|
| 第1回 | Healthy Japan                      | 授業概要の説明<br>1. 数学の英語<br>2. 専門用語の分析・構成法<br>3. 英文の論理構成の分析と読解<br>4. Pre-reading Activity: 英語で書き、まとめる。<br>5. Exercise I-II |
| 第2回 | Health and Evolutionary Psychology | 1. 専門用語の分析・構成法  |

|            |                                 |   |
|------------|---------------------------------|---|
|            |                                 | <p>2. 英文の論理構成の分析と読解</p> <p>3. Pre-reading Activity: 英語で書き、まとめる。</p> <p>Exercise I-II</p>                          |
| 第3回        | Natural Defense                 | <p>4. 専門用語の分析・構成法</p> <p>5. 英文の論理構成の分析と読解</p> <p>6. Pre-reading Activity: 英語で書き、まとめる。</p> <p>7. Exercise I-II</p> |
| 第4回        | Race and Health                 | <p>1. 専門用語の分析・構成法</p> <p>2. 英文の論理構成の分析と読解</p> <p>3. Pre-reading Activity: 英語で書き、まとめる。</p> <p>4. Exercise I-II</p> |
| 第5回        | Understanding Medical Studies   | <p>4. 専門用語の分析・構成法</p> <p>5. 英文の論理構成の分析と読解</p> <p>6. Pre-reading Activity: 英語で書き、まとめる。</p> <p>4. Exercise I-II</p> |
| 第6回        | Cancer                          | <p>1. 専門用語の分析・構成法</p> <p>2. 英文の論理構成の分析と読解</p> <p>3. Pre-reading Activity: 英語で書き、まとめる。</p> <p>4. Exercise I-II</p> |
| 第7回        | The World's Most Common Disease | <p>1. 専門用語の分析・構成法</p> <p>2. 英文の論理構成の分析と読解</p> <p>3. Pre-reading Activity: 英語で書き、まとめる。</p> <p>4. Exercise I-II</p> |
| 第8回<br>第9回 | Instant Noodles<br>Supplements  | <p>1. 専門用語の分析・構成法</p> <p>2. 英文の論理構成の分析と読解</p> <p>3. Pre-reading Activity: 英語で書き、まとめる。</p> <p>4. Exercise I-II</p> |
| 第10回       | The New Global Epidemic         | <p>1. 専門用語の分析・構成法</p> <p>2. 英文の論理構成の分析と読解</p>   |

|        |                   |  |
|--------|-------------------|--|
|        |                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>3. Pre-reading Activity: 英語で書き、まとめる。</li> <li>4. Exercise I-II</li> </ul>   |
| 第 11 回 | Health and Genes  | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 専門用語の分析・構成法</li> <li>2. 英文の論理構成の分析と読解</li> <li>3. Pre-reading Activity: 英語で書き、まとめる。</li> <li>4. Exercise I-II</li> </ul>                       |
| 第 12 回 | Mental Health     | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 専門用語の分析・構成法</li> <li>2. 英文の論理構成の分析と読解</li> <li>3. Pre-reading Activity: 英語で書き、まとめる。</li> <li>4. Exercise I-II</li> </ul>                       |
| 第 13 回 | Addictions        | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 専門用語の分析・構成法</li> <li>2. 英文の論理構成の分析と読解</li> <li>3. Pre-reading Activity: 英語で書き、まとめる。</li> <li>4. Exercise I-II</li> </ul>                       |
| 第 14 回 | Antibiotics       | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 専門用語の分析・構成法</li> <li>2. 英文の論理構成の分析と読解</li> <li>3. Pre-reading Activity: 英語で書き、まとめる。</li> <li>4. Exercise I-II</li> <li>5. 学期末試験について</li> </ul> |
| 第 15 回 | The New Nutrition | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 専門用語の分析・構成法</li> <li>2. 英文の論理構成の分析と読解</li> <li>3. Pre-reading Activity: 英語で書き、まとめる。</li> <li>4. Exercise I-II</li> <li>5. 学期末試験について</li> </ul> |

区分名： 人間の身体機能と病態を理解する

科目名 (英語名称含む) : 病態診断治療学【看護2】 (Pathophysiology, including diagnosis and treatment)

教員名： 太田昌一郎

開講年次： 2年次, 前学期：2018年度 後期 , 必修/選択：必須

授業形態：講義 , 単位数：3.0単位 , 時間数：60時間

概要：循環器系、消化器系、代謝内分泌系、腎泌尿器系などの臓器や組織における病態と診断、治療、予後などを学習し、それぞれの疾患の特性を理解する。治療については、薬物療法、外科的治療、緩和ケアにも言及する。基礎医学と看護専門科目への橋渡しとなるような内容に心がける。

学習目標：血液・造血器疾患、消化器疾患、代謝疾患、内分泌疾患、循環器疾患、腎・泌尿器疾患、免疫アレルギー疾患、呼吸器疾患、感染症、神経系疾患の代表的な疾患について、

- 1) 主要症状と兆候を列挙し、その病態を説明できる
- 2) 主な診断方法と治療法を説明できる
- 3) 各疾患の予後を理解し、看護の関わり方を理解説明できる

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

| 学習アウトカム   |             |   | 科目達成レベル                                       |   |          |
|---|-------------|---|---|---|----------|
| 1. プロフェッショナル                                    |             |   |   |   |          |
| 看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。 |             |   |   |   |          |
| 1)  | 看護倫理        | ① | 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。            | — | 修得の機会がない |
|   |             | ② | 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。 |   |          |
| 2)  | 習慣・服装・品位/礼儀 | ① | 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。             | — | 修得の機会がない |
|   |             | ② | 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。        |   |          |
|   |             | ③ | 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。                    |   |          |

|  |                       |   |   |   |                      |
|--|-----------------------|---|---|---|----------------------|
| 3)   | 対人関係                  | ① | 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。                                    | — | 修得の機会がない             |
| 4)   | 法令等の規範遵守              | ① | 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。                                 | — | 修得の機会がない             |
|  |                       | ② | 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。  |   |                      |
| 2. 生涯学習  |                       |   |   |   |                      |
| 看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。 |                       |   |   |   |                      |
| 1)   | 自己啓発と自己鍛錬             | ① | 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。                                     | — | 修得の機会がない             |
|  |                       | ② | 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。                                     |   |                      |
|  |                       | ③ | 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。                            |   |                      |
|  |                       | ④ | 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。 |   |                      |
| 3. 人間関係の理解とコミュニケーション   |                       |   |   |   |                      |
| 自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。    |                       |   |   |   |                      |
| 1)   | 看護を必要とする人々とのコミュニケーション | ① | 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。                                 | △ | 修得の機会はあるが単位の認定には関係ない |
|  |                       | ② | 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。  |   |                      |
|  |                       | ③ | 看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。                                |   |                      |
|  |                       | ④ | 望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。                                     |   |                      |
| 2)   |                       | ① | 人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。                                 | △ | 修得の機会はあるが単           |



|   |                    |   |   |   |                            |
|---|--------------------|---|---|---|----------------------------|
|   | チームでのコミュニケーション     | ② | チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。             |   | 位の認定には関係ない                 |
|   |                    | ③ | チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。 |   |                            |
|   |                    | ④ | 人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。        |   |                            |
| 4. 知識とその応用                                |                    |   |   |   |                            |
| 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。 |                    |   |   |   |                            |
|   |                    |   | 以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)                        |   |                            |
| 1)  | 豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者 | ① | 感性を高める科目  | △ | 修得の機会はあるが単位の認定には関係ない       |
|   |                    | ② | 倫理性を高める科目   |   |                            |
|   |                    | ③ | 論理的思考能力を高める科目   |   |                            |
|   |                    | ④ | 表現力を培う科目  |   |                            |
| 2)  | 創造性豊かな看護専門職者       | ① | 社会の理解を深める科目   | ◎ | 看護の一部として実践できることが単位認定の要件である |
|   |                    | ② | 人間の理解を深める科目   |   |                            |
|   |                    | ③ | 人間の身体機能と病態を理解する科目   |   |                            |
|   |                    | ④ | 看護の基本となる科目  |   |                            |
|   |                    | ⑤ | 看護実践の基盤となる科目  |   |                            |
| 3)  | ニーズに対応する実践         | ① | 看護実践の応用となる科目  | ◎ | 看護の一部として実践                 |

|   |                  |   |   |   |                     |
|---|------------------|---|---|---|---------------------|
|   | 能力を備えた看護専門職者     | ② | 看護の実践   |   | できることが単位認定の要件である    |
|   |                  | ③ | 看護を統合する科目   |   |                     |
| 5. 看護の実践  |                  |   |   |   |                     |
| 人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。            |                  |   |   |   |                     |
| 1)  | 人々のニーズに基づいた看護の実践 | ① | 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。  | △ | 修得の機会はあるが単位認定には関係ない |
|   |                  | ② | 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。                                     |   |                     |
|   |                  | ③ | 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。                                    |   |                     |
|   |                  | ④ | 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。   |   |                     |
|   |                  | ⑤ | 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。   |   |                     |
|   |                  | ⑥ | 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。                            |   |                     |
|   |                  | ⑦ | 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。  |   |                     |
|   |                  | ⑧ | 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。 |   |                     |
| 6. 地域社会への貢献   |                  |   |   |   |                     |
| (1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。 |                  |   |   |   |                     |

|   |                 |   |  |   |                     |
|---|-----------------|---|--|---|---------------------|
| <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p>  |                 |   |  |   |                     |
| 1)  | 地域の人々の生命と暮らしを守る | ① | 地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。   | △ | 修得の機会はあるが単位認定には関係ない |
|   |                 | ② | 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。      |   |                     |
| 2)  | 福島の災害から学ぶ       | ① | 福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。  | — | 修得の機会はない            |
|   |                 | ② | 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。                           |   |                     |
|   |                 | ③ | 放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。 |   |                     |
| 7. 看護学発展への貢献  |                 |   |  |   |                     |
| 看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。 |                 |   |  |   |                     |
| 1)  | 科学的・論理的思考       | ① | 看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。                                | △ | 修得の機会はあるが単位認定には関係ない |
|   |                 | ② | 科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。                        |   |                     |

テキスト：特に用いない 教員作成の資料、プレゼンテーションを用いる

参考書：加園恵三著 症例人間病態論 京都廣川書店、加園恵三、太田昌一郎共著 症例人

間病態論 Vol.2 京都廣川書店

成績評価方法：期末筆記試験、理解度を確認するため、小テストを随時施行することがある

その他（メッセージ等）：解剖学、病理学を理解していることを前提に講義を行う。近年の国家試験で取り上げられた項目については、随時講義内で触れる。

授業内容(学習項目)

| 回数   | 項目            | 内容（キーワード等）                                   |
|------|---------------|--|
| 第1回  | 病態を学ぶ前に       | オリエンテーション、疾患の概念、診断学の概念について                   |
| 第2回  | 主な検査値の読み方     | 血液検査、貧血の診断、炎症性疾患、主な生化学検査の項目について              |
| 第3回  | 血液・造血器疾患(1)   | 白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫など                             |
| 第4回  | 血液・造血器疾患(2)   | DIC、凝固・線溶系の異常など                              |
| 第5回  | 呼吸器疾患(1)      | 検査法、閉塞性・拘束性肺疾患、呼吸器感染症                        |
| 第6回  | 呼吸器疾患(2)      | 肺腫瘍、気管支喘息、胸膜疾患など                             |
| 第7回  | 循環器疾患(1)      | 基礎的事項、心不全                                    |
| 第8回  | 循環器疾患(2)      | 不整脈、先天性心疾患                                   |
| 第9回  | 循環器疾患(3)      | 弁膜症、虚血性心疾患                                   |
| 第10回 | 循環器疾患(4)      | 心筋疾患、心膜疾患、血圧異常、脈管疾患、ショック                     |
| 第11回 | 消化器疾患(1)      | 分類、主な症候、上部消化管良性疾患、悪性腫瘍                       |
| 第12回 | 消化器疾患(2)      | 特発性炎症性大腸炎、下部消化管悪性腫瘍など                        |
| 第13回 | 肝臓・胆道・膵臓疾患(1) | 主な症候、肝炎の原因と病態、肝硬変、肝細胞がん、劇症肝炎                 |
| 第14回 | 肝臓・胆道・膵臓疾患(2) | 肝臓疾患続き、薬物療法、肝移植 胆石症、急性膵炎、慢性膵炎、膵臓がん、など        |
| 第15回 | 腎・泌尿器疾患(1)    | 腎炎の分類、ネフローゼ症候群、糸球体腎炎、慢性腎不全、急性腎不全 など          |
| 第16回 | 腎・泌尿器疾患(2)    | 泌尿器科疾患、良性疾患、悪性腫瘍、排泄ケアなど                      |
| 第17回 | 代謝・栄養疾患(1)    | 生活習慣病とは、肥満、糖尿病など                             |
| 第18回 | 代謝・栄養疾患(2)    | 骨粗鬆症、痛風、腫瘍崩壊症候群など                            |
| 第19回 | 内分泌疾患(1)      | 視床・下垂体系、下垂体・性腺系、ネガティブフィードバックなど調整機構           |
| 第20回 | 内分泌疾患(2)      | 甲状腺疾患、二次性高血圧、カルシウム代謝異常など                     |
| 第21回 | 感染症(1)        | 法規、予防、治療薬など                                  |
| 第22回 | 感染症(2)        | HIV 感染症、ウイルス感染症、原虫・寄生虫疾患、真菌感染症、クラミジア、リケッチアなど |

|        |            |                                 |
|--------|------------|---------------------------------|
| 第 23 回 | アレルギー疾患    | 薬剤アレルギー、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、蕁麻疹など  |
| 第 24 回 | 自己免疫疾患・膠原病 | 関節リウマチ、全身性エリテマトーデス、多発性筋炎など      |
| 第 25 回 | 精神・神経疾患(1) | うつ病、統合失調症、薬物依存症など               |
| 第 26 回 | 精神・神経疾患(2) | 認知症、パーキンソン病、てんかんなど              |
| 第 27 回 | 脳血管障害      | 脳梗塞、脳出血、止血機構、各種治療など             |
| 第 28 回 | 移植医療       | 臓器移植、骨髄移植など                     |
| 第 29 回 | 緩和ケア       | 痛みの生理学、オピオイドの使い方、WHO ラダー、ホスピスなど |
| 第 30 回 | まとめ        | 重要項目の復習、国家試験で取り上げられている内容など      |

区分名：

科目名（英語名称含む）： 看護実践を支える看護技術とアセスメントⅢ（Nursing skills and assessment as the foundation nursing practice Ⅲ）

教員名：川島理恵 丸山育子 田中啓子 林紋美

開講年次：2年次，学 期：2018年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：60時間

概要：看護学は、実践の学問です。授業は病床を想定した実習室において行い、学生が互いに患者役看護者役を体験して、看護技術の基本を学びます。看護者は看護技術の提供において、様々な視点から対象を把握し、看護の必要性をアセスメントし、個別性を踏まえながら方法を考えます。この一連のプロセスでは、客観的な根拠(evidence)に基づいて考えることが大切です。「何故そのように行うか」と「どのように行うか」の双方に着目しながら複数の教員と共に看護の基本を学びます。

学習目標：

1. 脳神経の障害が人間の生活に与える影響について説明することができる。
2. 脳神経に関するフィジカルイグザミネーションの基本を実践することができる。
3. 呼吸器の障害が人間の生活に与える影響について説明することができる。
4. 呼吸器に関するフィジカルイグザミネーションの基本を実践することができる。
5. 呼吸障害のある方の呼吸を整えるための基本的な技術を実践することができる。
6. 薬物療法を受ける対象に関わる看護者の役割について説明することができる。
7. 看護者が実施する注射法の範囲を踏まえ、基本的な技術を実践することが出来る。
8. 意識レベルのアセスメントの基本を実践することが出来る。
9. 一時救命処置の基本を実践することができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

| 学習アウトカム   |      |   | 科目達成レベル                                       |   |                                |
|---|------|---|---|---|--------------------------------|
| 1. プロフェッショナル                                    |      |   |   |   |                                |
| 看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。 |      |   |   |   |                                |
| 1)  | 看護倫理 | ① | 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。            | ○ | 態度、習慣、価値観を模倣的に示せることが単位認定の条件である |
|   |      | ② | 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。 |   |                                |

|  |             |   |   |   |                                |
|--|-------------|---|---|---|--------------------------------|
| 2)   | 習慣・服装・品位/礼儀 | ① | 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。                                     | ○ | 態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の条件である |
|  |             | ② | 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。                                |   |                                |
|  |             | ③ | 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。  |   |                                |
| 3)   | 対人関係        | ① | 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。                                    | ○ | 態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の条件である |
| 4)   | 法令等の規範遵守    | ① | 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。                                 | ○ | 態度、習慣、価値観を模範的に示せることが単位認定の条件である |
|  |             | ② | 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。  |   |                                |
| 2. 生涯学習  |             |   |   |   |                                |
| 看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。 |             |   |   |   |                                |
| 1)   | 自己啓発と自己鍛錬   | ① | 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。                                     | △ | 修得の機会はあるが、単位認定に関係はない           |
|  |             | ② | 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。                                     |   |                                |
|  |             | ③ | 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。                            |   |                                |
|  |             | ④ | 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。 |   |                                |
| 3. 人間関係の理解とコミュニケーション   |             |   |   |   |                                |
| 自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。    |             |   |   |   |                                |
| 1)   | 看護を必要とする人々  | ① | 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。                                 | ○ | 基盤となる態度、習慣、                    |

|   |                    |   |   |   |                        |
|---|--------------------|---|---|---|------------------------|
|   | とのコミュニケーション        | ② | 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。                                    |   | スキルなどを示せることが単位認定の条件である |
|   |                    | ③ | 看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。                      |   |                        |
|   |                    | ④ | 望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。                           |   |                        |
| 2)  | チームでのコミュニケーション     | ① | 人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。                       | — | 修得の機会がない               |
|   |                    | ② | チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。             |   |                        |
|   |                    | ③ | チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。 |   |                        |
|   |                    | ④ | 人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。        |   |                        |
| 4. 知識とその応用                                |                    |   |   |   |                        |
| 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。 |                    |   |   |   |                        |
|   |                    |   | 以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)                        |   |                        |
| 1)  | 豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者 | ① | 感性を高める科目  | — | 修得の機会がない               |
|   |                    | ② | 倫理性を高める科目   |   |                        |
|   |                    | ③ | 論理的思考能力を高める科目   |   |                        |
|   |                    | ④ | 表現力を培う科目  |   |                        |
| 2)  |                    | ① | 社会の理解を深める科目   | ○ | 模擬的な場に知識を応             |



|  |                        |   |  |   |                      |
|--|------------------------|---|--|---|----------------------|
|  | 創造性豊かな看護専門職者           | ② | 人間の理解を深める科目  |   | 用できることが単位認定の要件である    |
|  |                        | ③ | 人間の身体機能と病態を理解する科目  |   |                      |
|  |                        | ④ | 看護の基本となる科目   |   |                      |
|  |                        | ⑤ | 看護実践の基盤となる科目   |   |                      |
| 3)   | ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者 | ① | 看護実践の応用となる科目   | — | 修得の機会がない             |
|  |                        | ② | 看護の実践  |   |                      |
|  |                        | ③ | 看護を統合する科目  |   |                      |
| 5. 看護の実践   |                        |   |  |   |                      |
| 人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。 |                        |   |  |   |                      |
| 1)   | 人々のニーズに基づいた看護の実践       | ① | 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。                 | △ | 修得の機会はあるが、単位認定に関係はない |
|  |                        | ② | 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。          |   |                      |
|  |                        | ③ | 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。         |   |                      |
|  |                        | ④ | 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。                            |   |                      |
|  |                        | ⑤ | 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。                      |   |                      |
|  |                        | ⑥ | 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。 |   |                      |
|  |                        | ⑦ | 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。                                 |   |                      |

|   |                 |   |   |   |                      |
|---|-----------------|---|---|---|----------------------|
|   |                 | ⑧ | 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。 |   |                      |
| 6. 地域社会への貢献   |                 |   |   |   |                      |
| <p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p> |                 |   |   |   |                      |
| 1)  | 地域の人々の生命と暮らしを守る | ① | 地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。                            | — | 修得の機会が無い             |
|   |                 | ② | 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。                               |   |                      |
| 2)  | 福島の災害から学ぶ       | ① | 福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。                           | — | 修得の機会が無い             |
|   |                 | ② | 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。  |   |                      |
|   |                 | ③ | 放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。                          |   |                      |
| 7. 看護学発展への貢献  |                 |   |   |   |                      |
| 看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。   |                 |   |   |   |                      |
| 1)  | 科学的・論理的思考       | ① | 看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。   | △ | 修得の機会はあるが、単位認定に関係はない |
|   |                 | ② | 科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。   |   |                      |

テキスト：テキストの指定はありません。

参考書： 配布資料に記載します。

成績評価方法：筆記試験、実技試験、授業への取り組みを総合して評価します。

その他（メッセージ等）：

対象に沿った看護を実践するためには、対象の状態をアセスメントする能力と技術力が必要です。技術を習得するには、繰り返し練習することが必要です。学生同士で互いに刺激しながら、また、教員も活用しながら共に学んで行きましょう。

授業内容(学習項目)

| 回数      | 項目               | 内容（キーワード等）                 |
|---------|------------------|----------------------------|
| 第1・2回   | 脳神経のアセスメント       | 物を見る(第2・3・4・6脳神経)その①       |
| 第3・4回   | 脳神経のアセスメント       | 物を見る(第2・3・4・6脳神経)その②       |
| 第5・6回   | 脳神経のアセスメント       | 顔や口腔・鼻腔の感覚、表情をつくる(第5・7脳神経) |
| 第7・8回   | 脳神経のアセスメント       | 物を嗅ぐ、音や声を聞く(第1・8脳神経)       |
| 第9・10回  | 脳神経のアセスメント       | 食べる(第9・10・12脳神経)           |
| 第11・12回 | 呼吸機能の看護技術とアセスメント | 呼吸介助                       |
| 第13・14回 | 薬物療法に伴う看護技術      | 酸素ボンベの取り扱い                 |
| 第15・16回 | 薬物療法に伴う看護技術      | 気道内吸引                      |
| 第17・18回 | 薬物療法に伴う看護技術      | 呼吸のアセスメントと看護(グループワーク)      |
| 第19・20回 | 薬物療法に伴う看護技術      | 薬物の特徴 薬物療法を受ける対象に関わる看護者の役割 |
| 第21・22回 | 薬物療法に伴う看護技術      | 経口薬を内服する対象に対する看護者の役割       |
| 第23・24回 | 薬物療法に伴う看護技術      | 注射法(注射法の特徴と注射薬の準備)         |
| 第25・26回 | 薬物療法に伴う看護技術      | 注射法(皮下注射と筋肉内注射)            |
| 第27・28回 | 薬物療法に伴う看護技術      | 注射法(点滴静脈内注射の準備と実施)         |
| 第29・30回 | 救命救急処置           | 意識状態のアセスメント 一次救命処置         |

区分名： 人間の身体機能と病態を理解する

科目名（英語名称含む）： 薬物治療学（Pharmacotherapy）

教員名： 本多 たかし、尾形 浩

開講年次： 2年次，学 期： 2018年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態： 講義実習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：30時間

概要： 薬物が生体に作用して引き起こす種々の反応とその作用機序について学び、薬について患者にわかりやすく説明できるように狭義の薬物療法学についての基礎知識を習得する。

学習目標： 薬物療法を実施するにあたっての必要な薬物の基礎知識を学ぶ。

#### 学習アウトカムと科目達成レベル表

| 学習アウトカム   |             |   | 科目達成レベル                                       |   |
|---|-------------|---|---|---|
| 1. プロフェッショナル                                    |             |   |   |   |
| 看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。 |             |   |   |   |
| 1)  | 看護倫理        | ① | 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。            | ● |
|   |             | ② | 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。 |   |
| 2)  | 習慣・服装・品位/礼儀 | ① | 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。             | ○ |
|   |             | ② | 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。        |   |
|   |             | ③ | 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。                    |   |
| 3)  | 対人関係        | ① | 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。            | — |
| 4)  | 法令等の規範遵守    | ① | 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。         | ● |
|   |             | ② | 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。                  |   |

| 2. 生涯学習  |                       |   |   |   |
|--|-----------------------|---|---|---|
| 看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。 |                       |   |   |   |
| 1)   | 自己啓発と自己鍛錬             | ① | 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。                                     | △ |
|  |                       | ② | 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。                                     |   |
|  |                       | ③ | 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。                            |   |
|  |                       | ④ | 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。 |   |
| 3. 人間関係の理解とコミュニケーション   |                       |   |   |   |
| 自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。    |                       |   |   |   |
| 1)   | 看護を必要とする人々とのコミュニケーション | ① | 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。                                 | — |
|  |                       | ② | 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。  |   |
|  |                       | ③ | 看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。                                |   |
|  |                       | ④ | 望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。                                     |   |
| 2)   | チームでのコミュニケーション        | ① | 人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。                                 | — |
|  |                       | ② | チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。                       |   |
|  |                       | ③ | チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。           |   |

|  |                        |   |  |   |  |
|--|------------------------|---|--|---|--|
|  |                        | ④ | 人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。 |   |  |
| 4. 知識とその応用   |                        |   |  |   |  |
| 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。            |                        |   |  |   |  |
|  |                        |   | 以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。（学部コースツリー参照）                 |   |  |
| 1)   | 豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者     | ① | 感性を高める科目   | ○ |  |
|  |                        | ② | 倫理性を高める科目  |   |  |
|  |                        | ③ | 論理的思考能力を高める科目  |   |  |
|  |                        | ④ | 表現力を培う科目   |   |  |
| 2)   | 創造性豊かな看護専門職者           | ① | 社会の理解を深める科目  | ○ |  |
|  |                        | ② | 人間の理解を深める科目  |   |  |
|  |                        | ③ | 人間の身体機能と病態を理解する科目                                    |   |  |
|  |                        | ④ | 看護の基本となる科目   |   |  |
|  |                        | ⑤ | 看護実践の基盤となる科目   |   |  |
| 3)   | ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者 | ① | 看護実践の応用となる科目   | — |  |
|  |                        | ② | 看護の実践  |   |  |
|  |                        | ③ | 看護を統合する科目  |   |  |
| 5. 看護の実践   |                        |   |  |   |  |
| 人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。 |                        |   |  |   |  |

|   |                  |   |   |   |
|---|------------------|---|---|---|
| 1)  | 人々のニーズに基づいた看護の実践 | ① | 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。  | △ |
|   |                  | ② | 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。                                     |   |
|   |                  | ③ | 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。                                    |   |
|   |                  | ④ | 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。   |   |
|   |                  | ⑤ | 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。   |   |
|   |                  | ⑥ | 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。                            |   |
|   |                  | ⑦ | 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。  |   |
|   |                  | ⑧ | 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。 |   |
| 6. 地域社会への貢献   |                  |   |   |   |
| <p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p> |                  |   |   |   |
| 1)  | 地域の人々の生命と暮らしを守る  | ① | 地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。                            | - |
|   |                  | ② | 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。                               |   |

|   |           |   |  |   |  |
|---|-----------|---|--|---|--|
| 2)  | 福島から学ぶ    | ① | 福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。  | - |  |
|   |           | ② | 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。                           |   |  |
|   |           | ③ | 放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。 |   |  |
| 7. 看護学発展への貢献  |           |   |  |   |  |
| 看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。 |           |   |  |   |  |
| 1)  | 科学的・論理的思考 | ① | 看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。                                | ● |  |
|   |           | ② | 科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。                        |   |  |

テキスト： コメディカルのための薬理学 渡邊泰秀・樋口マキエ 編 朝倉書店

参考書： 系統看護学講座：専門基礎「薬理学」医学書院

成績評価方法： 平常点、試験などを総合的に評価する。

その他（メッセージ等）： 人体解剖生理学 I・II、生化学、病理学の単位を修得しておくこと。また、各章ごとの資料をFMUパスポートに掲示するので授業にあたって各自紙媒体等に出力して持参すること。

#### 授業内容(学習項目)

| 回 | 項目       | 内容(キーワード等)                                   |
|---|----------|--|
| 1 | 薬理学総論(1) | 薬とは  |
| 2 | 薬理学総論(2) | 薬の作用機序                                       |
| 3 | 感染症治療薬   | 抗菌薬(抗生物質、抗菌薬)、抗ウイルス(HIV、HCV、インフルエンザ)薬、特殊な感染症 |
| 4 | 抗がん薬     | 各種抗がん薬と支持療法、分子標的療法                           |



|    |               |  |
|----|---------------|--|
| 5  | 免疫治療薬         | 免疫抑制薬、免疫増強薬、感染予防薬  |
| 6  | 抗アレルギー薬       | 抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬  |
| 7  | 抗炎症、鎮痛薬       | 非ステロイド性抗炎症薬、鎮痛薬、ステロイド性抗炎症薬、慢性関節リウマチ治療薬、片頭痛治療薬                  |
| 8  | 末梢神経作用薬（1）    | 自律神経系と神経伝達物質   |
| 9  | 末梢神経作用薬（2）    | 自律神経に作用する薬物、局所麻酔薬、筋弛緩薬   |
| 10 | 中枢神経作用薬（1）    | 中枢神経系と神経伝達物質   |
| 11 | 中枢神経作用薬（2）    | 抗不安薬と催眠薬、統合失調症治療薬、認知症治療薬、双極性障害治療薬、抗うつ薬、パーキンソン病治療薬、全身麻酔薬、麻薬性鎮痛薬 |
| 12 | 循環器系、血液系疾患治療薬 | 虚血性心疾患治療薬、心不全治療薬、抗不整脈薬、降圧薬、利尿薬、高脂血症治療薬、抗血液凝固薬                  |
| 13 | 呼吸器、消化器系疾患治療薬 | 気管支喘息治療薬、消化性潰瘍治療薬、ヘリコバクター・ピロリ除菌薬                               |
| 14 | 代謝内分泌疾患治療薬    | 糖尿病治療薬、甲状腺疾患治療薬  |
| 15 | 漢方薬           | 漢方薬とは、漢方薬と適応症  |

区分名：看護実践の基盤となる科目

科目名（英語名称含む）：成長発達に合わせた健康の維持・増進に関する看護2 【看護2】

教員名：古戸順子、和田久美子、太田操、山手美和、脇屋友美子、片桐和子、井上水絵、横山郁美、坂本祐子、大川貴子

開講年次：2年次，学 期：2018年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義・演習 ， 単位数：3.0単位 ， 時間数：60時間

概要：ヘルスプロモーションの考え方や、対象の発達課題と健康課題に応じたヘルスプロモーション活動の方法について学ぶ。個人・家族・集団などに対する健康教育（患者教育）・健康相談に必要な支援方法を学ぶ。

学習目標：

（一般目標）ヘルスプロモーション、健康教育（患者教育）・健康相談について理解できる。

- （行動目標）
1. ヘルスプロモーションについて説明できる。
  2. 保健行動に関する理論やモデルが説明できる。
  3. 対象の発達段階に応じた保健行動が列挙できる。
  4. 対象の発達段階と健康課題に応じた健康教育の企画・立案ができる。
  5. 立案した健康教育企画を学生間で模擬演習を行い、その健康教育企画の効果・実行可能性について評価（自己・他者）を行うことができる。
  6. 健康相談を行う上での基本的知識および態度を習得する。
  7. 健康相談の模擬演習で対象の健康課題を心理的・身体的・社会的状況から捉えることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

| 学習アウトカム   |      |   | 科目達成レベル                          |
|---|------|---|----------------------------------|
| 1. プロフェッショナル                                    |      |   |                                  |
| 看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。 |      |   |                                  |
| 1)  | 看護倫理 | ① 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。            | ○ 態度、習慣、価値観を模擬的に示せることが単位認定の要件である |
|   |      | ② 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。 |                                  |
| 2)  |      | ① 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。             | 〃                                |

|  |                       |   |   |   |                                 |
|--|-----------------------|---|---|---|---------------------------------|
|  | 習慣・服装・品位/礼儀           | ② | 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。                                | ○ |                                 |
|  |                       | ③ | 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。  |   |                                 |
| 3)   | 対人関係                  | ① | 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。                                    | ○ | 〃                               |
| 4)   | 法令等の規範遵守              | ① | 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。                                 | ○ | 〃                               |
|  |                       | ② | 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。  |   |                                 |
| 2. 生涯学習  |                       |   |   |   |                                 |
| 看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。 |                       |   |   |   |                                 |
| 1)   | 自己啓発と自己鍛錬             | ① | 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。                                     | ○ | 基盤となる態度、習慣、スキルを示せることが単位認定の要件である |
|  |                       | ② | 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。                                     |   |                                 |
|  |                       | ③ | 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。                            |   |                                 |
|  |                       | ④ | 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。 |   |                                 |
| 3. 人間関係の理解とコミュニケーション   |                       |   |   |   |                                 |
| 自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。    |                       |   |   |   |                                 |
| 1)   | 看護を必要とする人々とのコミュニケーション | ① | 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。                                 | ● | 実践の基礎となる知識を示せることが単位認定の要件である。    |
|  |                       | ② | 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。  |   |                                 |
|  |                       | ③ | 看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。                                |   |                                 |

|   |                    |   |   |   |                            |
|---|--------------------|---|---|---|----------------------------|
|   |                    | ④ | 望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。                           |   |                            |
| 2)  | チームでのコミュニケーション     | ① | 人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。                       | ◎ | 看護の一部として実践できることが単位認定の要件である |
|   |                    | ② | チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。             |   |                            |
|   |                    | ③ | チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。 |   |                            |
|   |                    | ④ | 人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。        |   |                            |
| 4. 知識とその応用                                |                    |   |   |   |                            |
| 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。 |                    |   |   |   |                            |
|   |                    |   | 以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)                        |   |                            |
| 1)  | 豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者 | ① | 感性を高める科目  | - | 修得の機会がない                   |
|   |                    | ② | 倫理性を高める科目   |   |                            |
|   |                    | ③ | 論理的思考能力を高める科目   |   |                            |
|   |                    | ④ | 表現力を培う科目  |   |                            |
| 2)  | 創造性豊かな看護専門職者       | ① | 社会の理解を深める科目   | ● | 基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である   |
|   |                    | ② | 人間の理解を深める科目   |   |                            |
|   |                    | ③ | 人間の身体機能と病態を理解する科目   |   |                            |
|   |                    | ④ | 看護の基本となる科目  |   |                            |

|  |                        |   |   |   |                             |
|--|------------------------|---|---|---|-----------------------------|
|  |                        | ⑤ | 看護実践の基盤となる科目  |   |                             |
| 3)   | ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者 | ① | 看護実践の応用となる科目  | — | 修得の機会がない                    |
|  |                        | ② | 看護の実践   |   |                             |
|  |                        | ③ | 看護を統合する科目   |   |                             |
| 5. 看護の実践   |                        |   |   |   |                             |
| 人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。 |                        |   |   |   |                             |
| 1)   | 人々のニーズに基づいた看護の実践       | ① | 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。  | ● | 看護の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である |
|  |                        | ② | 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。                                     |   |                             |
|  |                        | ③ | 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。                                    |   |                             |
|  |                        | ④ | 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。   |   |                             |
|  |                        | ⑤ | 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。   |   |                             |
|  |                        | ⑥ | 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。                            |   |                             |
|  |                        | ⑦ | 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。  |   |                             |
|  |                        | ⑧ | 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。 |   |                             |

| 6. 地域社会への貢献   |                 |   |  |   |                          |
|---|-----------------|---|--|---|--------------------------|
| <p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p> |                 |   |  |   |                          |
| 1)  | 地域の人々の生命と暮らしを守る | ① | 地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。         | ● | 基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である |
|   |                 | ② | <del>人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。</del> |   |                          |
| 2)  | 福島の災害から学ぶ       | ① | 福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。        | - | 修得の機会がない                 |
|   |                 | ② | 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。                                 |   |                          |
|   |                 | ③ | 放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。       |   |                          |
| 7. 看護学発展への貢献  |                 |   |  |   |                          |
| 看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。   |                 |   |  |   |                          |
| 1)  | 科学的・論理的思考       | ① | 看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。                                      | - | 修得の機会がない                 |
|   |                 | ② | 科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。                              |   |                          |

テキスト：指定しない。

参考書：舟島なをみ：看護のための人間発達学（第5版）．医学書院．2011.

荒賀直子・後閑容子編：公衆衛生看護学．jp 第4版．インターメディカル．2015.

伊藤まゆみ編：看護に生かすカウンセリング I コミュニケーションスキル 対象の生き方を尊重した健康支援のためのアプローチ．ナカニシヤ出版．2014.

成績評価方法：出席日数、講義・演習への取り組み姿勢、提出物、筆記試験の総合評価

その他（メッセージ等）：対象にとって、より質の高い生活を過ごせるための基本的な支援方法を習得しましょう。

授業内容(学習項目)

| 回数   | 項目                                       | 内容（キーワード等）  |
|------|--|---|
| 第1回  | ガイダンス・健康の概念<br>＜担当：地域看護学＞<br>事前課題の説明     | WHOの定義、ウェルネス、フィットネス、健康のモデル、成人看護学・母性看護学事前課題の説明           |
| 第2回  | ヘルスプロモーションと看護の役割<br>＜担当：地域看護学＞           | プライマリ・ヘルス・ケア、ヘルスプロモーション、健康の決定要因、看護の役割                   |
| 第3回  | 健康相談とは<br>＜担当：地域看護学＞                     | 健康相談の定義、ヘルスカウンセリング                                      |
| 第4回  | 成人期の健康づくり①<br>＜担当：成人看護学＞                 | 学生自身の健康の自己管理、保健行動、自己効力感、動機付け、ソーシャルサポート                  |
| 第5回  | 子どもの健康づくり①<br>＜担当：小児看護学＞                 | 子どものヘルスプロモーション、成長発達評価                                   |
| 第6回  | 子どもの健康づくり②<br>＜担当：小児看護学＞                 | 子どもの生活習慣病、感染予防  |
| 第7回  | 子どもの健康づくり③<br>＜担当：小児看護学＞                 | 子どものセーフティプロモーション（事故予防）                                  |
| 第8回  | 女性の健康づくり①<br>＜担当：母性看護学＞                  | いのちの教育（含性教育）、出産準備教育（母親学級、両親学級、祖父母学級）、家族計画指導、産褥指導、母乳育児支援 |
| 第9回  | 女性の健康づくり②<br>＜担当：母性看護学＞                  | 〃   |
| 第10回 | 女性の健康づくり③<br>＜担当：母性看護学＞                  | 〃   |
| 第11回 | 成人期の健康づくり②<br>＜担当：成人看護学＞                 | 学生自身の健康の自己管理、保健行動、自己効力感、動機付け、ソーシャルサポート                  |
| 第12回 | 成人期の健康づくり③<br>＜担当：成人看護学＞                 | 〃   |
| 第13回 | 健康教育とは、健康教育・保健指導に関する理論、モデル<br>＜担当：地域看護学＞ | 健康教育とは、プリシード・プロシードモデル、行動変容ステージモデル、保健信念モデル、自己効力感         |

|      |                                |  |
|------|--------------------------------|--|
| 第14回 | 高齢者の健康づくり①<br>＜担当 老年看護学＞       | 転倒, 転倒リスク, 転倒予防, 閉じこもり, 寝たきり                       |
| 第15回 | 高齢者の健康づくり②<br>＜担当 老年看護学＞       | 〃  |
| 第16回 | 高齢者の健康づくり③<br>＜担当 老年看護学＞       | 〃  |
| 第17回 | 生涯を通じた心の健康づくり①<br>＜担当：精神看護学＞   | 動機付け面接法  |
| 第18回 | 生涯を通じた心の健康づくり②<br>＜担当：精神看護学＞   | アサーション・トレーニングの基本                                   |
| 第19回 | 生涯を通じた心の健康づくり③<br>＜担当：精神看護学＞   | アサーション・トレーニングの展開                                   |
| 第20回 | 地域住民を対象とした健康づくり①<br>＜担当：地域看護学＞ | 健康教育のプログラム, 健康教育のニーズアセスメント, 目的, 目標設定, 企画方法, 予算, 評価 |
| 第21回 | 地域住民を対象とした健康づくり②               | (演習) 健康教育の企画                                       |
| 第22回 | 地域住民を対象とした健康づくり③               | 〃  |
| 第23回 | 地域住民を対象とした健康づくり④               | 〃  |
| 第24回 | 地域住民を対象とした健康づくり⑤               | 〃  |
| 第25回 | 地域住民を対象とした健康づくり⑥               | (演習) 健康教育の企画, 媒体作成                                 |
| 第26回 | 地域住民を対象とした健康づくり⑦               | 〃  |
| 第27回 | 地域住民を対象とした健康づくり⑧               | 健康教育の実施 (発表)                                       |
| 第28回 | 地域住民を対象とした健康づくり⑨               | 〃  |



|        |                        |                                  |
|--------|------------------------|----------------------------------|
| 第 29 回 | 地域住民を対象とした健康づくり⑩       | 健康教育の評価                          |
| 第 30 回 | 地域住民を対象とした健康づくり⑪（健康相談） | 地域住民を対象とした健康相談ロールプレイ<br>授業全体のまとめ |

区分名：看護実践の応用となる科目

科目名（英語名称含む）：健康障害をもつ高齢者の看護Ⅰ（Gerontological NursingⅠ）

教員名：坂本祐子、齋藤史子、杉本幸子

開講年次：2年次，学 期：2018年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義 ， 単位数：1単位 ， 時間数：15時間

概要：高齢者の健康とQOLの維持・向上のための支援に必要な基本的な看護の知識と技術について教授する。

学習目標：高齢者の健康とQOLの維持・向上のために、加齢変化による生活機能への影響を学び、看護援助に必要な知識と基本的技術を理解する。

行動目標：

認知領域

1. 老年期の身体的・精神的・社会的・霊的側面における特徴を説明できる。
2. 指標やツールを用いて高齢者の状況を総合的にアセスメントできる。
3. 加齢変化が生活機能へ及ぼす影響を説明できる。
4. 高齢者の生活機能を支える看護実践とその評価に必要な知識と技術を習得できる。
5. 高齢者のこれまでの生活や価値観、強みから効果的な看護援助を選択できる。

情意領域

1. 高齢者やその家族について、興味を持って授業に参加することができる。
2. 高齢者やその家族への看護について、自分の考えを言葉にして表現できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

| 学習アウトカム   |      |   | 科目達成レベル                                       |   |                             |
|---|------|---|---|---|-----------------------------|
| 1. プロフェッショナル                                    |      |   |   |   |                             |
| 看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。 |      |   |   |   |                             |
| 1)  | 看護倫理 | ① | 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。            | ● | 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である |
|   |      | ② | 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。 |   |                             |
| 2)  |      | ① | 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。             | ● | 実践の基盤となる知識を示                |

|  |                 |   |   |   |                             |
|--|-----------------|---|---|---|-----------------------------|
|  | 習慣・服装・品位/礼儀     | ② | 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。                                |   | せることが単位認定の要件である             |
|  |                 | ③ | 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。  |   |                             |
| 3)   | 対人関係            | ① | 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。                                    | ● | 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である |
| 4)   | 法令等の規範遵守        | ① | 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。                                 | — | 習得の機会がない                    |
|  |                 | ② | 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。  |   |                             |
| 2. 生涯学習  |                 |   |   |   |                             |
| 看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。 |                 |   |   |   |                             |
| 1)   | 自己啓発と自己鍛錬       | ① | 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。                                     | △ | 習得の機会があるが、単位認定に関係ない         |
|  |                 | ② | 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。                                     |   |                             |
|  |                 | ③ | 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。                            |   |                             |
|  |                 | ④ | 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。 |   |                             |
| 3. 人間関係の理解とコミュニケーション   |                 |   |   |   |                             |
| 自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。    |                 |   |   |   |                             |
| 1)   | 看護を必要とする人々とのコミュ | ① | 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。                                 | ● | 実践の基盤となる知識を示せることが単位認        |
|  |                 | ② | 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。  |   |                             |

|   |                    |   |   |   |                    |
|---|--------------------|---|---|---|--------------------|
|   | コミュニケーション          | ③ | 看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。                      |   | 定の要件である            |
|   |                    | ④ | 望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。                           |   |                    |
| 2)  | チームでのコミュニケーション     | ① | 人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。                       | △ | 習得の機会はあるが単位認定に関係ない |
|   |                    | ② | チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。             |   |                    |
|   |                    | ③ | チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。 |   |                    |
|   |                    | ④ | 人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。        |   |                    |
| 4. 知識とその応用                                |                    |   |   |   |                    |
| 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。 |                    |   |   |   |                    |
|   |                    |   | 以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)                        |   |                    |
| 1)  | 豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者 | ① | 感性を高める科目  | — | 習得の機会がない           |
|   |                    | ② | 倫理性を高める科目   |   |                    |
|   |                    | ③ | 論理的思考能力を高める科目   |   |                    |
|   |                    | ④ | 表現力を培う科目  |   |                    |
| 2)  | 創造性豊かな看護専門職者       | ① | 社会の理解を深める科目   | — | 習得の機会がない           |
|   |                    | ② | 人間の理解を深める科目   |   |                    |

|  |                        |   |  |   |                             |
|--|------------------------|---|--|---|-----------------------------|
|  |                        | ③ | 人間の身体機能と病態を理解する科目  |   |                             |
|  |                        | ④ | 看護の基本となる科目   |   |                             |
|  |                        | ⑤ | 看護実践の基盤となる科目   |   |                             |
| 3)   | ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者 | ① | 看護実践の応用となる科目   | ● | 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である |
|  |                        | ② | 看護の実践  |   |                             |
|  |                        | ③ | 看護を統合する科目  |   |                             |
| 5. 看護の実践   |                        |   |  |   |                             |
| 人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。 |                        |   |  |   |                             |
| 1)   | 人々のニーズに基づいた看護の実践       | ① | 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。                 | ● | 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である |
|  |                        | ② | 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。          |   |                             |
|  |                        | ③ | 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。         |   |                             |
|  |                        | ④ | 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。                            |   |                             |
|  |                        | ⑤ | 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。                      |   |                             |
|  |                        | ⑥ | 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。 |   |                             |
|  |                        | ⑦ | 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。                                 |   |                             |

|   |                 |   |   |   |          |
|---|-----------------|---|---|---|----------|
|   |                 | ⑧ | 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。 |   |          |
| 6. 地域社会への貢献   |                 |   |   |   |          |
| <p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p> |                 |   |   |   |          |
| 1)  | 地域の人々の生命と暮らしを守る | ① | 地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。                            | — | 習得の機会がない |
|   |                 | ② | 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。                               |   |          |
| 2)  | 福島の災害から学ぶ       | ① | 福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。                           | — | 習得の機会がない |
|   |                 | ② | 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。  |   |          |
|   |                 | ③ | 放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。                          |   |          |
| 7. 看護学発展への貢献  |                 |   |   |   |          |
| 看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。   |                 |   |   |   |          |
| 1)  | 科学的・論理的思考       | ① | 看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。   | — | 習得の機会がない |
|   |                 | ② | 科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。   |   |          |

テキスト：

1. 正木治恵, 他：老年看護学概論（第2版）「老いを生きる」を支えることとは, 南江堂
2. 真田弘美, 他：老年看護学技術（第2版）最後までその人らしく生きることを支援する, 南江堂

参考書：

1. 北川公子, 他：系統看護学講座専門分野Ⅱ 老年看護学, 第8版, 医学書院
2. 堀内ふき, 他：ナーシング・グラフィカ 老年看護学① 高齢者の健康と障害, 第5版, メディカ出版
3. 堀内ふき, 他：ナーシング・グラフィカ 老年看護学② 高齢者看護の実践, 第4版, メディカ出版
4. 山田律子, 他：生活機能からみた老年看護過程, 第3版, 医学書院

成績評価方法：筆記試験を行う。出席時間数が全授業時間数の3分の2未満の者は試験を受けることができない。

その他（メッセージ等）：皆さんの知らない「古い」の世界の扉を開きましょう。皆さんの大切な人も、皆さん自身も、必ず通る道を豊かに歩いていくための支援を一緒に考えましょう。

授業内容(学習項目)

| 回数  | 項目                   | 内容（キーワード等）  |
|-----|----------------------|---|
| 第1回 | 老年看護の概論（復習）          | コースオリエンテーション、高齢者の発達的特徴、社会制度、老年看護の理念と目標、倫理的課題                                    |
| 第2回 | 老年看護に活用できる理論・アプローチ   | 老年期の健康の概念、セルフケア、サクセスフルエイジング、ウェルネスアプローチ、コンフォート、ライフストーリー、レジリエンス、エンパワメント、スピリチュアリティ |
| 第3回 | 高齢者のヘルスアセスメント        | 老年看護におけるヘルスアセスメント、生活機能のアセスメント（ICF生活機能評価、高齢者総合機能評価、基本的日常生活動作と手段的日常生活動作、認知機能の評価）  |
| 第4回 | 高齢者の生活と看護<br>1：食事    | 消化・摂食・咀嚼・嚥下機能の変化、栄養、脱水  |
| 第5回 | 高齢者の生活と看護<br>2：排泄    | 下部尿路機能・排便機能の変化と生活への影響   |
| 第6回 | 高齢者の生活と看護<br>3：活動と休息 | 活動の意味、睡眠の変化、コミュニケーション   |
| 第7回 | 高齢者の生活と看護<br>4：身じたく  | 清潔、身だしなみ、おしゃれ   |

|     |                     |                      |
|-----|---------------------|----------------------|
| 第8回 | 高齢者の療養生活の場<br>と家族支援 | 療養場所の特徴、家族のアセスメントと支援 |
|-----|---------------------|----------------------|



区分名：看護実践の応用となる科目

科目名（英語名称含む）：家族看護論（Family Nursing）

教員名：畠山 とも子

開講年次：2年次，学 期：2018年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：演習 ， 単位数：1単位 ， 時間数：30時間

概要：

- ・事例検討、ビデオ学習、ロールプレイを通して、患者・家族と看護師との相互作用を学ぶ。
- ・事例検討を通して様々な家族の援助を考える。

学習目標：

〈一般目標〉

- (1) 患者・家族と看護師との相互作用を理解し、援助の基本が分かる。
- (2) 家族アセスメントの基本が分かる。

〈行動目標〉

- (1) 患者・家族と看護師との相互作用を読み取ることができる。
- (2) 円環的な思考でシステムを理解できる。
- (3) 看護師も援助システムの一部であることが分かる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

| 学習アウトカム   |             |   | 科目達成レベル                                       |   |                               |
|---|-------------|---|---|---|-------------------------------|
| 1. プロフェッショナル                                    |             |   |   |   |                               |
| 看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。 |             |   |   |   |                               |
| 1)  | 看護倫理        | ① | 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。            | ○ | 態度、習慣、価値観を模倣的示せることが単位認定の要件である |
|   |             | ② | 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。 |   |                               |
| 2)  | 習慣・服装・品位/礼儀 | ① | 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。             | ○ | 〃                             |
|   |             | ② | 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。        |   |                               |
|   |             | ③ | 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。                    |   |                               |

|  |                       |   |   |   |                            |
|--|-----------------------|---|---|---|----------------------------|
| 3)   | 対人関係                  | ① | 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。                                    | ○ | 〃                          |
| 4)   | 法令等の規範遵守              | ① | 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。                                 | ○ | 〃                          |
|  |                       | ② | 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。  |   |                            |
| 2. 生涯学習  |                       |   |   |   |                            |
| 看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。 |                       |   |   |   |                            |
| 1)   | 自己啓発と自己鍛錬             | ① | 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。                                     | △ | 修得の機会があるが、単位認定に関係ない        |
|  |                       | ② | 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。                                     |   |                            |
|  |                       | ③ | 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。                            |   |                            |
|  |                       | ④ | 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。 |   |                            |
| 3. 人間関係の理解とコミュニケーション   |                       |   |   |   |                            |
| 自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。    |                       |   |   |   |                            |
| 1)   | 看護を必要とする人々とのコミュニケーション | ① | 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。                                 | ◎ | 看護の一部として実践できることが単位認定の要件である |
|  |                       | ② | 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。  |   |                            |
|  |                       | ③ | 看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。                                |   |                            |
|  |                       | ④ | 望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。                                     |   |                            |
| 2)   |                       | ① | 人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。                                 | ○ | 態度、習慣、価値観                  |

|   |                    |   |   |   |                              |
|---|--------------------|---|---|---|------------------------------|
|   | チームでのコミュニケーション     | ② | チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。             |   | を模擬的示せることが単位認定の要件である         |
|   |                    | ③ | チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。 |   |                              |
|   |                    | ④ | 人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。        |   |                              |
| 4. 知識とその応用                                |                    |   |   |   |                              |
| 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。 |                    |   |   |   |                              |
|   |                    |   | 以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)                        |   |                              |
| 1)  | 豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者 | ① | 感性を高める科目  | ○ | 模擬的な場面に知識を応用できることが単位認定の要件である |
|   |                    | ② | 倫理性を高める科目   |   |                              |
|   |                    | ③ | 論理的思考能力を高める科目   |   |                              |
|   |                    | ④ | 表現力を培う科目  |   |                              |
| 2)  | 創造性豊かな看護専門職者       | ① | 社会の理解を深める科目   | ○ | 〃                            |
|   |                    | ② | 人間の理解を深める科目   |   |                              |
|   |                    | ③ | 人間の身体機能と病態を理解する科目   |   |                              |
|   |                    | ④ | 看護の基本となる科目  |   |                              |
|   |                    | ⑤ | 看護実践の基盤となる科目  |   |                              |
| 3)  | ニーズに対応する実践         | ① | 看護実践の応用となる科目  |   | 基盤となる知識を示せ                   |

|   |                  |   |   |                             |
|---|------------------|---|---|-----------------------------|
|   | 能力を備えた看護専門職者     | ② 看護の実践   | ● | ることが単位認定の要件である              |
|   |                  | ③ 看護を統合する科目   |   |                             |
| 5. 看護の実践  |                  |   |   |                             |
| 人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。            |                  |   |   |                             |
| 1)  | 人々のニーズに基づいた看護の実践 | ① 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。  |   | 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である |
|   |                  | ② 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。                                     |   |                             |
|   |                  | ③ 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。                                    |   |                             |
|   |                  | ④ 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。   | ● |                             |
|   |                  | ⑤ 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。   |   |                             |
|   |                  | ⑥ 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。                            |   |                             |
|   |                  | ⑦ 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。  |   |                             |
|   |                  | ⑧ 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。 |   |                             |
| 6. 地域社会への貢献   |                  |   |   |                             |
| (1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。 |                  |   |   |                             |

|   |                 |   |  |   |          |
|---|-----------------|---|--|---|----------|
| (2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。         |                 |   |  |   |          |
| 1)  | 地域の人々の生命と暮らしを守る | ① | 地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。   | — | 修得の機会がない |
|   |                 | ② | 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。      |   |          |
| 2)  | 福島の災害から学ぶ       | ① | 福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。  | — | 〃        |
|   |                 | ② | 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。                           |   |          |
|   |                 | ③ | 放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。 |   |          |
| 7. 看護学発展への貢献  |                 |   |  |   |          |
| 看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。 |                 |   |  |   |          |
| 1)  | 科学的・論理的思考       | ① | 看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。                                | — | 修得の機会がない |
|   |                 | ② | 科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。                        |   |          |

テキスト：

- ・臨床での家族支援3 日本看護協会出版会
- ・DVDBOOK3 臨床での家族支援 複数面接での関係づくり 日本看護協会出版会

参考書：指定なし

成績評価方法：レポート、出席状況

その他（メッセージ等）：

家族看護を学ぶと患者理解も深まり、看護がますます楽しくなります。

授業内容(学習項目)

| 回数   | 項目                         | 内容（キーワード等）            |
|------|----------------------------|-----------------------|
| 第1回  | ベッドサイドでの関係づくり              | 事例検討                  |
| 第2回  | ベッドサイドでの関係づくり              | DVD 学習                |
| 第3回  | ベッドサイドでの関係づくり              | シナリオロールプレイ            |
| 第4回  | ベッドサイドでの関係づくり              | ロールプレイ                |
| 第5回  | ジェノグラム                     | ジェノグラムを通して自分の家族史を振り返る |
| 第6回  | 複数面接での関係づくり                | 事例検討                  |
| 第7回  | 複数面接での関係づくり                | DVD 学習                |
| 第8回  | 複数面接での関係づくり                | シナリオロールプレイ            |
| 第9回  | 複数面接での関係づくり                | ロールプレイ                |
| 第10回 | 複数面接での関係づくり<br>(自分たちで)     | 事例作り                  |
| 第11回 | 複数面接での関係づくり                | 事例検討                  |
| 第12回 | 複数面接での関係づくり                | ロールプレイ                |
| 第13回 | 複数面接での関係づくり                | ロールプレイ                |
| 第14回 | インフォームドコンセントに<br>おける看護師の役割 | DVD 学習                |
| 第15回 | インフォームドコンセントに<br>おける看護師の役割 | DVD 学習                |

区分名：看護実践の応用となる科目

科目名（英語名称含む）：地域看護学 I

教員名：高瀬佳苗、伊東尚美

開講年次：2年次，学 期：2018年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：講義演習 ， 単位数：2単位 ， 時間数：45時間

概要：この科目では、地域で生活する様々な健康水準の人々（個人および家族、集団、コミュニティ）を対象とした地域看護活動に必要な地域診断について、演習を通して学習します。そして、地域診断を基礎とした行政、学校、産業の各活動場所における保健師、産業（職域）看護師、養護教諭の活動の実際について具体的に学びます。

学習目標（一般）：

- 1) 地域看護活動における地域診断とは何かについて学ぶ。
- 2) 地域看護活動における地域診断の実践的な手法について学習する。
- 3) 地域診断を基盤とする行政、学校、産業の場における地域看護活動について学ぶ。

学習目標（行動）：

1. 地域診断の目的、意義、必要性を述べることができる。
2. 既存のデータ等を用いて地域診断の過程を修得することができる。
3. 地域診断に基づいて健康問題を明確にし、説明することができる。
4. 地域診断に基づいた地域看護活動の方法について述べることができる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

| 学習アウトカム   |      |   | 科目達成レベル                            |         |
|---|------|---|------------------------------------|---------|
| 1. プロフェッショナル                                    |      |   |                                    |         |
| 看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。 |      |   |                                    |         |
| 1)  | 看護倫理 | ① | 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。 | —<br>ない |

|    |             |   |   |   |                     |
|----|-------------|---|---|---|---------------------|
|    |             | ② | 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。 |   |                     |
| 2) | 習慣・服装・品位/礼儀 | ① | 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。             | △ | 修得の機会があるが、単位認定に関係ない |
|    |             | ② | 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。        |   |                     |
|    |             | ③ | 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。                    |   |                     |
| 3) | 対人関係        | ① | 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。            | △ | 修得の機会があるが、単位認定に関係ない |
| 4) | 法令等の規範遵守    | ① | 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。         | △ | 修得の機会があるが、単位認定に関係ない |
|    |             | ② | 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。                  |   |                     |

## 2. 生涯学習

看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。

|    |           |   |   |   |                     |
|----|-----------|---|---|---|---------------------|
| 1) | 自己啓発と自己鍛錬 | ① | 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。                                     | △ | 修得の機会があるが、単位認定に関係ない |
|    |           | ② | 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。                                     |   |                     |
|    |           | ③ | 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。                            |   |                     |
|    |           | ④ | 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。 |   |                     |

## 3. 人間関係の理解とコミュニケーション

自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。



|   |                       |   |   |   |                     |
|---|-----------------------|---|---|---|---------------------|
| 1)  | 看護を必要とする人々とのコミュニケーション | ① | 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。                       | △ | 修得の機会があるが、単位認定に関係ない |
|   |                       | ② | 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。                                    |   |                     |
|   |                       | ③ | 看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。                      |   |                     |
|   |                       | ④ | 望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。                           |   |                     |
| 2)  | チームでのコミュニケーション        | ① | 人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。                       | — | 修得の機会がない            |
|   |                       | ② | チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。             |   |                     |
|   |                       | ③ | チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。 |   |                     |
|   |                       | ④ | 人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。        |   |                     |
| 4. 知識とその応用                                |                       |   |   |   |                     |
| 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。 |                       |   |   |   |                     |
|   |                       |   | 以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)                        |   |                     |
| 1)  | 豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者    | ① | 感性を高める科目  | — | 修得の機会がない            |
|   |                       | ② | 倫理性を高める科目   |   |                     |
|   |                       | ③ | 論理的思考能力を高める科目   |   |                     |
|   |                       | ④ | 表現力を培う科目  |   |                     |

|    |                        |   |                   |   |                          |
|----|------------------------|---|-------------------|---|--------------------------|
| 2) | 創造性豊かな看護専門職者           | ① | 社会の理解を深める科目       | — | 修得の機会がない                 |
|    |                        | ② | 人間の理解を深める科目       |   |                          |
|    |                        | ③ | 人間の身体機能と病態を理解する科目 |   |                          |
|    |                        | ④ | 看護の基本となる科目        |   |                          |
|    |                        | ⑤ | 看護実践の基盤となる科目      |   |                          |
| 3) | ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者 | ① | 看護実践の応用となる科目      | ○ | 模擬的な場で実践できることが単位認定の要件である |
|    |                        | ② | 看護の実践————         |   |                          |
|    |                        | ③ | 看護を統合する科目         |   |                          |

### 5. 看護の実践

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。

|    |                  |   |  |   |                             |
|----|------------------|---|--|---|-----------------------------|
| 1) | 人々のニーズに基づいた看護の実践 | ① | 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。                 | ● | 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である |
|    |                  | ② | 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。          |   |                             |
|    |                  | ③ | 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。         |   |                             |
|    |                  | ④ | 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。                            |   |                             |
|    |                  | ⑤ | 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。                      |   |                             |
|    |                  | ⑥ | 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。 |   |                             |

|   |                 |   |   |   |                    |
|---|-----------------|---|---|---|--------------------|
|   |                 | ⑦ | 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。  |   |                    |
|   |                 | ⑧ | 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。 |   |                    |
| 6. 地域社会への貢献   |                 |   |   |   |                    |
| <p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p> |                 |   |   |   |                    |
| 1)  | 地域の人々の生命と暮らしを守る | ① | 地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。                            | ○ | 理解と計画立案が単位認定の要件である |
|   |                 | ② | 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。                               |   |                    |
| 2)  | 福島の災害から学ぶ       | ① | 福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。                           | — | 修得の機会がない           |
|   |                 | ② | 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。  |   |                    |
|   |                 | ③ | 放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。                          |   |                    |
| 7. 看護学発展への貢献  |                 |   |   |   |                    |
| 看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。   |                 |   |   |   |                    |
| 1)  | 科学的・論理的思考       | ① | 看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。   | ● | 実践の基盤となる知識         |

|  |  |   |                                     |                   |
|--|--|---|-------------------------------------|-------------------|
|  |  | ② | 科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。 | を示せることが単位認定の要件である |
|--|--|---|-------------------------------------|-------------------|

テキスト：荒賀直子・後閑容子編：公衆衛生看護学. jp 第3版. インターメディカル. 最新版

参考書：宮崎美砂子他編. 最新地域看護学第2版各論1, 日本看護協会出版会.

宮崎美砂子他編. 最新地域看護学第2版各論2, 日本看護協会出版会.

宮崎美砂子他編. 最新地域看護学第2版総論, 日本看護協会出版会.

厚生労働統計協会. 国民衛生の動向. 最新版.

Anderson, E. T. & McFarlane, J. (2004)/ 金川克子, 早川和生監訳(2007). コミュニティ・アズ・パートナー：地域看護学の理論と実際, 医学書院.

成績評価方法：出席および講義・演習中の態度 20%(演習中の携帯電話等の操作は減点になります)、筆記試験 50%、課題提出物 30%

その他(メッセージ等)：この科目は、地域を理解する実習とリンクしていますので、講義と演習と実習というように学びを関連づけることが必要になります。また、疫学、統計学の知識も応用しますので、事前事後の学習を行いましょう。

#### 授業内容(学習項目)

| 回数  | 項目                       | 内容(キーワード等)  |
|-----|--------------------------|-------------|
| 第1回 | 1限 地域診断の意義と必要性           | 意義、必要性      |
|     | 2限 地域診断の方法               | 分類、要約、推論、過程 |
| 第2回 | 1限 地域診断(演習)① 地域の特徴を捉える   | 情報の収集と分析    |
|     | 2限 地域診断(演習)② 地域の特徴を捉える   | 既存の資料       |
| 第3回 | 1限 地域診断(演習)③ 健康情報を収集する   | 情報の収集と分析    |
|     | 2限 地域診断(演習)④ 健康情報を収集する   | 既存の資料       |
| 第4回 | 1限 地域診断(演習)⑤ 地域の概観を描く    | 発表準備、発表資料作成 |
|     | 2限 地区踏査, 実習直前オリエンテーション   |             |
| 第5回 | 1限 地域診断(演習)⑥ 地区把握発表1     | 地域特性の紹介     |
|     | 2限 地域診断(演習)⑦ 地区把握発表2     |             |
| 第6回 | 1限 地域診断(演習)⑧ 健康問題のアセスメント | 分析の視点       |
|     | 2限 地域診断(演習)⑨ 健康問題のアセスメント | 情報分析と推論     |

|      |  |                         |
|------|--|-------------------------|
| 第7回  | 1 限 地域診断(演習)⑩ 健康問題のアセスメント<br>2 限 地域診断(演習)⑪ 健康問題のアセスメント   | 情報分析と推論<br>発表準備、発表資料作成  |
| 第8回  | 1 限 地域診断(演習)⑫ 地域診断発表 1<br>2 限 地域診断(演習)⑬ 地域診断発表 2         | 地域診断の発表                 |
| 第9回  | 1 限 地域診断と地域保健活動計画<br>2 限 活動計画に基づいた看護活動(行政)               | 地域診断、活動計画<br>保健事業、実施と評価 |
| 第10回 | 1 限 活動計画に基づいた看護活動(職域/産業 1)<br>2 限 活動計画に基づいた看護活動(職域/産業 1) | 職域の健康問題<br>活動計画と実際      |
| 第11回 | 1 限 活動計画に基づいた看護活動(学校 1)<br>2 限 活動計画に基づいた看護活動(学校 2)       | 学校の健康問題<br>活動計画と実際      |
| 第12回 | 1 限 地域看護学 I 筆記試験   |                         |

区分名：看護の基本となる科目

科目名（英語名称含む）：地域を理解する実習【看護2】

教員名：古戸順子、高瀬佳苗、高橋香子、伊東尚美、秦暁子

開講年次：2年次，学 期：2018年度 後期 ， 必修／選択：必修

授業形態：実習 ， 単位数：1.0単位 ， 時間数：45時間

実習目的：地域を理解する実習では、健康指標、保健医療福祉制度、そのほか健康に関連する統計、地域の人々の健康に関する考え方やニーズなどを統合して地域全体を捉えることの重要性を理解するために、保健所を中心とした実習を行う。また、地域の健康課題に対して展開される地域保健活動の実際を理解し、その意義や課題について考える。

実習目標：

- 1) 地域を理解するための健康指標、保健医療福祉制度、健康に関連する統計資料などを統合し、地域の特徴を理解できる。
- 2) 地域に生活する人々の健康水準が理解できる。
- 3) 地域保健活動の特徴について理解できる。
- 4) 地域における看護活動の場所の特徴について説明できる。

学習アウトカムと科目達成レベル表

| 学習アウトカム   |             |   | 科目達成レベル                                       |   |  |
|---|-------------|---|---|---|--|
| 1. プロフェッショナル                                    |             |   |   |   |  |
| 看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。 |             |   |   |   |  |
| 1)  | 看護倫理        | ① | 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。            | ◎ | 実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の要件である |
|   |             | ② | 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。 |   |  |
| 2)  | 習慣・服装・品位/礼儀 | ① | 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。             | ◎ | 〃                                      |
|   |             | ② | 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。        |   |  |
|   |             | ③ | 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。                    |   |  |

|  |                       |   |   |   |                             |
|--|-----------------------|---|---|---|-----------------------------|
| 3)   | 対人関係                  | ① | 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。                                    | ◎ | 〃                           |
| 4)   | 法令等の規範遵守              | ① | 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。                                 | ◎ | 〃                           |
|  |                       | ② | 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。  |   |                             |
| 2. 生涯学習  |                       |   |   |   |                             |
| 看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。 |                       |   |   |   |                             |
| 1)   | 自己啓発と自己鍛錬             | ① | 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。                                     | ◎ | 実践できることが単位認定の要件である          |
|  |                       | ② | 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。                                     |   |                             |
|  |                       | ③ | 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。                            |   |                             |
|  |                       | ④ | 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。 |   |                             |
| 3. 人間関係の理解とコミュニケーション   |                       |   |   |   |                             |
| 自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。    |                       |   |   |   |                             |
| 1)   | 看護を必要とする人々とのコミュニケーション | ① | 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。                                 | ● | 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である |
|  |                       | ② | 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。  |   |                             |
|  |                       | ③ | 看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。                                |   |                             |
|  |                       | ④ | 望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。                                     |   |                             |
| 2)   |                       | ① | 人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。                                 | ● | 〃                           |

|   |                    |   |   |   |                            |
|---|--------------------|---|---|---|----------------------------|
|   | チームでのコミュニケーション     | ② | チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。             |   |                            |
|   |                    | ③ | チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。 |   |                            |
|   |                    | ④ | 人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。        |   |                            |
| 4. 知識とその応用                                |                    |   |   |   |                            |
| 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。 |                    |   |   |   |                            |
|   |                    |   | 以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)                        |   |                            |
| 1)  | 豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者 | ① | 感性を高める科目  | — | 修得の機会がない                   |
|   |                    | ② | 倫理性を高める科目   |   |                            |
|   |                    | ③ | 論理的思考能力を高める科目   |   |                            |
|   |                    | ④ | 表現力を培う科目  |   |                            |
| 2)  | 創造性豊かな看護専門職者       | ① | <del>社会の理解を深める科目</del>                                      | ◎ | 看護の場に知識を応用できることが単位認定の要件である |
|   |                    | ② | <del>人間の理解を深める科目</del>                                      |   |                            |
|   |                    | ③ | <del>人間の身体機能と病態を理解する科目</del>                                |   |                            |
|   |                    | ④ | 看護の基本となる科目  |   |                            |
|   |                    | ⑤ | <del>看護実践の基盤となる科目</del>                                     |   |                            |
| 3)  | ニーズに対応する実践         | ① | 看護実践の応用となる科目  | — | 修得の機会がない                   |



|   |                  |   |   |   |                     |
|---|------------------|---|---|---|---------------------|
|   | 能力を備えた看護専門職者     | ② | 看護の実践   |   |                     |
|   |                  | ③ | 看護を統合する科目   |   |                     |
| 5. 看護の実践  |                  |   |   |   |                     |
| 人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。            |                  |   |   |   |                     |
| 1)  | 人々のニーズに基づいた看護の実践 | ① | 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。  | △ | 修得の機会があるが、単位認定に関係ない |
|   |                  | ② | 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。                                     |   |                     |
|   |                  | ③ | 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。                                    |   |                     |
|   |                  | ④ | 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。   |   |                     |
|   |                  | ⑤ | 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。   |   |                     |
|   |                  | ⑥ | 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。                            |   |                     |
|   |                  | ⑦ | 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。  |   |                     |
|   |                  | ⑧ | 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。 |   |                     |
| 6. 地域社会への貢献   |                  |   |   |   |                     |
| (1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。 |                  |   |   |   |                     |

|   |                 |   |  |   |                             |
|---|-----------------|---|--|---|-----------------------------|
| (2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。         |                 |   |  |   |                             |
| 1)  | 地域の人々の生命と暮らしを守る | ① | 地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。   | ● | 実践の基盤となる知識を示せることが単位認定の要件である |
|   |                 | ② | 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。      |   |                             |
| 2)  | 福島の災害から学ぶ       | ① | 福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。  | △ | 修得の機会があるが単位認定に関係ない          |
|   |                 | ② | 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。                           |   |                             |
|   |                 | ③ | 放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。 |   |                             |
| 7. 看護学発展への貢献  |                 |   |  |   |                             |
| 看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。 |                 |   |  |   |                             |
| 1)  | 科学的・論理的思考       | ① | 看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。                                | — | 修得の機会がない                    |
|   |                 | ② | 科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。                        |   |                             |

成績評価方法：出席日数、実習への取り組み、カンファレンスへの参加状況、実習記録、レポートによる総合的に評価する。

その他（メッセージ等）：本実習は、「地域の理解」や「地域看護学Ⅰ」と連動して実施します。これらの科目の予習復習を行い、学内での講義と実際の場面を統合させながら学びましょう。

## 授業内容(学習項目)

### 1)実施方法

- ・保健所を中心として1週間(5日間)の実習を行う。
- ・4~8人を1つのグループとして各施設で実習を行う。

### 2)実習内容

- ・管轄市町村の地区把握をする。
- ・所内保健事業や、管轄地域内の市町村・産業・学校等の保健事業に参加する。
- ・保健所の業務・役割を理解する。

区分名：看護の基本となる科目

科目名(英語名称含む)：基礎看護学実習Ⅱ (fundamental nursing clinical practicum Ⅱ)

教員名：丸山育子 木下美佐子 佐藤博子 川島理恵 堀内輝子 田中啓子 林紋美

開講年次：2年次，学 期：2018年度 後期 ， 必修/選択：必修

授業形態：実習，単位数：2単位 ， 時間数：90時間

概要：本実習は、健康問題を抱え、治療や検査を受けている方を受け持ち、2週間を通して対象を理解しながら、看護を実際に提供します。看護を提供するために不可欠な看護実践のプロセスを踏み看護実践の基礎的な力を培います。

学習目標：

- (1) 対象の生活に着目し、系統立てて看護実践のプロセスを展開できる思考力を培う。
- (2) 対象の生活に着目し、系統立てて看護実践のプロセスを展開できる実行力を培う。
- (3) 看護の展開を通して、対象の視点を大切にしながら自分自身の看護観を深める。
- (4) 専門職として自律する姿勢を身につける。

学習アウトカムと科目達成レベル表

| 学習アウトカム   |             |   | 科目達成レベル                                       |   |  |
|---|-------------|---|---|---|--|
| 1. プロフェッショナル                                    |             |   |   |   |  |
| 看護専門職者をめざす者として、それにふさわしい基本的な態度・姿勢の必要性を理解し、行動できる。 |             |   |   |   |  |
| 1)  | 看護倫理        | ① | 生命倫理と看護の倫理の原則を理解し、それに基づき、考え、行動できる。            | ◎ | 看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である |
|   |             | ② | 生命の尊厳や人権について理解し、人々の意思決定を支え、擁護に向けた行動をとることができる。 |   |  |
| 2)  | 習慣・服装・品位/礼儀 | ① | 状況に適合した、服装、衛生観念、言葉遣い、態度をとることができる。             | ◎ | 看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である |
|   |             | ② | 時間を厳守し、何事においても真摯に対応し、積極性や誠実性を示すことができる。        |   |  |
|   |             | ③ | 自らの誤り、不適切な行為を認識し、正すことができる。                    |   |  |

|  |           |   |   |   |  |
|--|-----------|---|---|---|--|
|  |           |   |   |   |  |
| 3)   | 対人関係      | ① | 他者に自分の価値観を押しつけず、常に敬意を払って接することができる。                                    | ◎ | 看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である |
| 4)   | 法令等の規範遵守  | ① | 個人情報の取扱いに注意し、守秘義務を守り、人々のプライバシーを尊重できる。                                 | ◎ | 看護実践の場で看護職としての態度、習慣、価値観を示せることが単位認定の条件である |
|  |           | ② | 各種法令、大学等関連諸機関の規定を遵守することができる。  |   |  |
| 2. 生涯学習  |           |   |   |   |  |
| 看護専門職者として優れた洞察力と応用力を兼ね備え、看護学及び関連の広い分野の科学的情報を収集・評価し、論理的思考の継続的改善を行うことができる。 |           |   |   |   |  |
| 1)   | 自己啓発と自己鍛錬 | ① | 看護学・医療の発展、人類の福祉に貢献することの重要性を理解できる。                                     | △ | 修得の機会はあるが、単位認定に関係はない                     |
|  |           | ② | 看護学に関する情報を、目的に合わせて効率的に入手することができる。                                     |   |  |
|  |           | ③ | 独立自尊の気風を養い、自己管理・自己評価を行い、自身で責任を持って考え、行動できる。                            |   |  |
|  |           | ④ | 自らのキャリアをデザインし、自己主導型学習（自身の疑問や知識・技能不足を認識し、自ら必要な学習）により、常に自己の向上を図ることができる。 |   |  |
| 3. 人間関係の理解とコミュニケーション   |           |   |   |   |  |
| 自己を内省する力を養うとともに、他者とのコミュニケーションを通して、他者を理解し、互いの立場を尊重したよりよい人間関係を築くことができる。    |           |   |   |   |  |

|   |                       |   |   |   |                            |
|---|-----------------------|---|---|---|----------------------------|
| 1)  | 看護を必要とする人々とのコミュニケーション | ① | 人々の生命、健康、生活について幅広い関心を持ち、深く洞察することができる。                       | ◎ | 看護の一部として実践できることが単位認定の要件である |
|   |                       | ② | 人々の社会的背景を理解して尊重することができる。                                    |   |                            |
|   |                       | ③ | 看護専門職者としてふさわしいコミュニケーションスキルを身につけ、実践できる。                      |   |                            |
|   |                       | ④ | 望ましい健康行動がとれるよう人々の意思決定を支援することができる。                           |   |                            |
| 2)  | チームでのコミュニケーション        | ① | 人々の健康を支えるチームの一員に看護の立場から参加し、他職種と協働できる。                       | ◎ | 看護の一部として実践できることが単位認定の要件である |
|   |                       | ② | チーム医療におけるリーダーシップの意義と看護専門職者が果たす役割について理解することができる。             |   |                            |
|   |                       | ③ | チームメンバーに対して、尊敬、共感、信頼、誠実さを示し、看護専門職者としての責任を果たす重要性を理解することができる。 |   |                            |
|   |                       | ④ | 人々に必要な看護が継続されるよう、医療チームメンバーに適切に情報を提供する重要性を理解することができる。        |   |                            |
| 4. 知識とその応用                                |                       |   |   |   |                            |
| 看護専門職者の基盤となる知識を修得し、科学的根拠に基づき、看護の実践に応用できる。 |                       |   |   |   |                            |
|   |                       |   | 以下の科目の知識を修得し、学習内容を説明できる。(学部コースツリー参照)                        |   |                            |
| 1)  | 豊かな感性と倫理観をもつ看護専門職者    | ① | 感性を高める科目  | — | 修得の機会はない                   |
|   |                       | ② | 倫理性を高める科目   |   |                            |
|   |                       | ③ | 論理的思考能力を高める科目   |   |                            |
|   |                       | ④ | 表現力を培う科目  |   |                            |

|    |                        |   |                   |   |                            |
|----|------------------------|---|-------------------|---|----------------------------|
| 2) | 創造性豊かな看護専門職者           | ① | 社会の理解を深める科目       | ◎ | 看護の一部として実践できることが単位認定音要件である |
|    |                        | ② | 人間の理解を深める科目       |   |                            |
|    |                        | ③ | 人間の身体機能と病態を理解する科目 |   |                            |
|    |                        | ④ | 看護の基本となる科目        |   |                            |
|    |                        | ⑤ | 看護実践の基盤となる科目      |   |                            |
| 3) | ニーズに対応する実践能力を備えた看護専門職者 | ① | 看護実践の応用となる科目      | — | 修得の機会はない                   |
|    |                        | ② | 看護の実践             |   |                            |
|    |                        | ③ | 看護を統合する科目         |   |                            |

### 5. 看護の実践

人々が生活するあらゆる場において、あらゆる健康レベルの人々のニーズに基づいた看護を実践することができる。

|    |                  |   |  |   |                            |
|----|------------------|---|--|---|----------------------------|
| 1) | 人々のニーズに基づいた看護の実践 | ① | 人々の健康レベルを、成長発達や日常生活を取り巻く環境の観点で捉えることができる。                 | ◎ | 看護の一部として実践できることが単位認定音要件である |
|    |                  | ② | 人々が活用できる地域の社会資源、保健・医療・福祉制度や関係機関の機能と連携について説明できる。          |   |                            |
|    |                  | ③ | 人々の健康に関するニーズを明らかにするために、必要な情報を収集し、アセスメントすることができる。         |   |                            |
|    |                  | ④ | 健康問題に応じた、根拠に基づく看護を計画することができる。                            |   |                            |
|    |                  | ⑤ | 安全で効果的なケアを探求し、あらゆる健康段階に応じた看護を実践できる。                      |   |                            |
|    |                  | ⑥ | 看護の対象となる人々、保健医療福祉等の専門職と協働して、人々がその健康問題を解決することを支援することができる。 |   |                            |

|   |                 |   |   |   |                      |
|---|-----------------|---|---|---|----------------------|
|   |                 | ⑦ | 看護実践を評価し、計画の修正を図ることができる。  |   |                      |
|   |                 | ⑧ | 地域の人々の健康問題の解決のために、既存の社会資源の改善や新たな社会資源の開発、フォーマル・インフォーマルなサービスのネットワーク化、システム化の重要性を説明できる。 |   |                      |
| 6. 地域社会への貢献   |                 |   |   |   |                      |
| <p>(1) 地域の特性を理解し、人々が住み慣れた地域や家庭で安心して生活できるよう、看護専門職者としての役割を果たすことができる。</p> <p>(2) 福島での大規模複合災害から、災害時に必要となる種々の連携について学び、説明できる。</p> |                 |   |   |   |                      |
| 1)  | 地域の人々の生命と暮らしを守る | ① | 地域の特性やそこで暮らす人々の生活状況を理解し、人々が抱える健康問題と関連する要因や生活背景について説明できる。                            | △ | 修得の機会はあるが、単位認定に関係はない |
|   |                 | ② | 人々とともに、安心して生活できる地域づくりを考え、そのために協働する看護専門職者の役割について説明できる。                               |   |                      |
| 2)  | 福島の災害から学ぶ       | ① | 福島でおこった大規模複合災害を学び、必要な医療・福祉・保健・行政をはじめとする各種連携の実際を理解し、説明できる。                           | — | 修得の機会がない             |
|   |                 | ② | 放射線災害の実際を知り、放射線を科学的に学び、適切に説明できる。  |   |                      |
|   |                 | ③ | 放射線（および災害）に対する地域住民の不安が理解でき、社会・地域住民とのリスクコミュニケーションについて説明できる。                          |   |                      |
| 7. 看護学発展への貢献  |                 |   |   |   |                      |
| 看護学領域での研究の意義や、科学的・論理的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を理解できる。   |                 |   |   |   |                      |
| 1)  | 科学的・論理的思考       | ① | 看護実践を通して、看護学上の課題を考えることができる。   | △ | 修得の機会はあるが、           |



|  |  |   |                                     |            |
|--|--|---|-------------------------------------|------------|
|  |  | ② | 科学的思考に基づいて看護学上の課題を解決することの重要性を説明できる。 | 単位認定に関係はない |
|--|--|---|-------------------------------------|------------|

テキスト：指定しない。

参考書：適宜提示する。

当該実習総時間数の 5分の4以上出席しなければ単位認定を受けることができない。

実習評価は実習内容・実習態度・記録を統合して行う。評価配点は実習要項に記載する。

その他（メッセージ等）：

授業内容(学習項目)

1 グループ5名程度、各グループに1名の教員が担当します。

詳細は実習要項にて提示します。